

あがつま



年間聖句

『兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。』

(ガラテヤの信徒への手紙 5章 13節)

♪ 賛美歌を歌おう⑬
 『ああ主は誰がため』
 (讚美歌第138番)
 アイザック・ウォッツ
 (1674-1748) によるレント
 の賛美歌です。『イギリス
 賛美歌の父』とも呼ばれる
 ウォッツの賛美歌は、海を
 渡ったアメリカ大陸におい
 ても多くのキリスト者に愛
 唱されます。『アンクル・
 トムの小屋』の作者である
 ストウ夫人の弟で、小説教
 者であったヘンリー・ウォ
 ードは『英語を話すプロテ
 スタント信者の多くは、ヨ
 ハネ黙示録よりウォッツの
 詞によって天国をイメージ
 している』と言う言葉を残
 しています。
 ウォッツの賛美歌は、ア
 メリカを経由して日本に伝
 わり、讚美歌(24年版)に
 は十七曲、讚美歌21にお

いても八曲のウォッツの賛
 美歌が収録され広く愛唱さ
 れています。その中であっ
 て『ああ主は誰がため』は
 日本語の訳詞が芸術的であ
 りあります。5節の歌詞
 【涙もめぐみに報いがたし、
 この身をささぐるほかはあ
 らじ】は原詩では、
 【悔い改めの涙も、つぐな
 うことはできない、私が負
 っている愛の負い目を。今、
 主よ、私は私自身を投げ捨
 てます。それが私にできる
 すべてです】(川端順四郎
 による直訳)となっており、
 大胆な意訳がなされている
 ことがわかります。この素
 晴らしい賛美歌を、この美
 しい訳詞で味わえることの
 幸せを思わずにはいられま
 せん。
 (稲垣真実)